

学校だより



令和6年1月10日
横浜市立二谷小学校
校長 矢島 孝幸

「あたり前のことを あたり前に！」

学校長 矢島 孝幸

12月初旬のことでした。4・5組の子どもたちが全校に呼びかけて「4・5組と遊ぼう」という長なわ集会を行いました。たくさん子どもたちや職員が集まり、楽しく活動していました。私も一緒に参加して楽しんでいたのですが、ちょっと足がもつれて運動場に転んでしまったのです。が、その時でした。私が立ち上がったら、3年生が数人近づいてきて、私の背中やズボンの砂を払ってくれたのです。「校長先生、大丈夫？」と声をかけてくれ、一生懸命に砂を落としてくれました。私は、とても嬉しく、感動しました。そして、二谷小の子どもたちは、なんて素晴らしいのだろうと改めて感じました。何気ないことかもしれませんが、この人に優しい心は、本校の宝です。

『今年もよろしくお願いたします。』コロナ前の教育活動に戻りつつある2023年を無事に乗り切ることができましたのは、地域・保護者の皆様のお力添えのおかげです。2024年もこれまで同様にご理解とご支援をよろしくお願いたします。私たち教職員一同は、『誰一人取り残さない学校』の実現に向けて、力を合わせて精一杯努力してまいります。そして、『誰もが安心して豊かに過ごせる学校』となるよう、今年も頑張ります。ご協力をお願いいたします。

昨年、最後の朝会で子どもたちに「あたり前のことをあたり前にできる」ことをこれからも大切にしたいと話をしました。この言葉は、ずっと言い続けています。子どもたちの心に少しずつ染み込んできているのではないかと感じます。その一例を紹介したいと思います。

「パパ、ママ、がっこういってきます！」
いつものあいさつ、たいせつに
あたりまえをたいせつに
～「市P連3行詩コンクール」1年生女子～

あさのちょう会のときに「あたりまえのことは、あたりまえにやろう」ということをぎつに思っていました。けど、6月くらいになったら、あたりまえのことをやっています。そしたら、もっと学校がたのしくなっています。～「つながり郵便」2年生女子より～

私は、今年もこの言葉を言い続けていくつもりです。子どもたち一人一人が「あたり前」を実践できるようになることで、目指す学校の姿に近づいていくと信じています。「あたり前」は子どもの成長段階によって違いはもちろんあります。ただ、基本的な「あたり前は」学年関係なく同じだと思っています。学校は、子どもたちの社会です。その社会で実行しなくてはいけない「あたり前」を実践できる子どもを育てたいと思います。12月の音楽集会では1年生が入学後8ヶ月で小学生としてのあたり前の姿を見せてくれました。1年生の成長は素晴らしいです。子どもたち、私たち教職員、ともに「あたり前のことをあたり前に」をこれからも大切にしていきたいと思っています。



新年早々、大変なニュースが世間を騒がせております。犠牲となられた方々にお悔やみ申し上げるとともに、被災された皆様の安全を心よりお祈りいたします。